

令和6年度 府中市立住吉小学校学校経営報告

府中市立住吉小学校
校長 木下 和紀

本校は、第3次府中市学校教育プランに基づき、「他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人」「社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」「自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人」の育成を目指し、「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点課題とし、「府中型コミュニティスクール」「小中連携」など地域連携協働の取組を通して、その解決に当たることを経営方針としてきた。今年度は、令和4年度が新型コロナウイルス感染症による制限のため、十分な教育活動が行えなかったことから、引き続きの取組とした。以下は、今年度の各取組と保護者アンケートの結果、それをもとにしたスクールコミュニティ協議会委員による評価、さらに令和7年度に向けた方策を示す。

1 今年度の主な取り組みと保護者アンケート及び教員アンケートの結果、スクールコミュニティ協議会委員による評価

(1) 学力・体力の向上

①基礎・基本の定着

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）の定期的な実施。年間16回。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の実施。年間20回。
- ・家庭学習の充実として「住吉毎日10分運動」（学年×10分）の実施。
- ・タブレットの毎日持ち帰りによる、家庭でのEラーニングの実施。
- ・1年生を対象に読みの力向上のための取組

②教師の授業力の向上

- ・授業評価（年間3回指導略案、授業公開）の実施。管理職による指導の実施。
- ・若手教員研修（4年次まで）の実施。年間4回の実施。
- ・タブレットの効果的な活用のための研修の実施。年間2回実施。

③学校全体の体力づくりを推進

- ・持久走旬間の実施
- ・年間を通しての縄跳び集会の実施
- ・青少対主催行事「ちびっ子相撲」に向けての練習

- 1 学校は個に応じた指導や基礎・基本の徹底等、学力の向上のための工夫・改善に努め、楽しい授業をしている。（習熟度別指導、放課後算数教室、BDT、通級指導、学習支援員の活用 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）82%】（昨年度 89%）

- 2 学校は、ICT機器を効果的に活用し、児童の学習活動に活かしている。（大型モニター、児童用タブレット端末の活用 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）83%】（昨年度 80%）

3 学校は、体力の向上や健康の増進に取り組んでいる。
(縄跳び旬間、体育朝会、持久走、保健指導、食育 など)

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 90%】（昨年度 88%）

＜スクールコミュニティ協議会の評価＞

学力向上

- ・タブレット端末の持ち帰りについては、児童と家庭に委ねる事は、とても難しいところだと思いますが、今後学校と親と一緒に考えていってほしいです。
- ・ICT 機器を使い、現代の子供の関心をいなく教育は素晴らしい。
- ・楽しく充実した授業が重要だと思います。
- ・ICT 機器の活用が、学力向上に結び付くかは、課題です。
- ・子供のつまづきに対応できるよう支援員の配置を今後も望みます。
- ・児童のタブレット端末を使用する際のルールや情報モラルについての教育も合わせて指導していただくよう今後は望みます。
- ・放課後算数教室等にもっとたくさん参加できるようになったらと思います。

体力向上

- ・全国的に子供たちの体力が低下していると聞きます。先生たちも悩ましいところだともいますが、限られた時間の中でも効率よく運動する時間を今後も取ってほしいです。
- ・ゲームの世界が現実であり、自宅での運動が難しい環境のため、学校で行うことは良いと思います。
- ・学校の取組はとても良いと思います。
- ・持久走の重要性を子供たちに認識させてほしいです。
- ・スポーツ選手など、外部講師を増やしてほしいです。
- ・なわとび、体育朝会、持久走など体を動かす機会を作り、子供たちが楽しめる企画を今後も期待しています。中休み、昼休みなど教室から一度外へ出て、みんなで校庭に出るなど習慣になると良いなと思います。
- ・楽しく運動できるように工夫して取り組んでいただきたいです。

＜評価を受けて＞

学力向上については、基礎基本の定着を徹底させていく。そのためにも、算数については、ベーシックドリルタイム（BDT）の定期的な実施を行い、復習を繰り返すことで定着を図る。また、算数の苦手な児童に対しては、放課後算数教室に参加し、地域の方との1対1の関りを通して、楽しく算数を学習し、算数の理解を深めるとともに算数に対しての苦手意識を軽減させる。今年度は、地域の方の人数の関係で、参加児童の人数を絞り、対象学年も2・3年生（3学期は、1年生も参加した）とした。今後、地域の方の協力者を増やすことで、対象児童の数と対象学年を増やしていき、算数に関する学力の向上を図っていく。

また、全国学力学習状況調査での無解答率の高さについて、国語・算数のみに限った

対応ではなく、低学年からの生活を含めての対応が必要であるとの分析により、全教育活動を通じての粘り強く、諦めない気持ちの育成を目指していく。

家庭でのタブレット端末の活用について進めてきてはいるが、家庭学習をする習慣をつける事がまだ難しいこともあり、「住吉毎日10分運動」の保護者への働きかけを続けて、家庭学習の習慣の徹底を図っていく。

今年度、1年生を対象に「読みの力の向上」のための取組を行い、1年生全体の読みの力を高めることができたとともに、支援の必要な児童に対して、早期の支援を行うことができた。来年度は、継続して取り組むとともに、「書きの力の向上」の取組についても検討していき、読み書きでの躓きを少なくしていくとともに、早期の対応により、いじめや不登校に繋がらないようにしていく。

新型コロナウイルス感染症のための制限の影響から抜け出せておらずに、体力テストの平均値が東京都及び府中市の平均値よりも低い種目が多い結果はまだ変わらない。来年度は、熱中症対策のため6月から9月の期間は、休み時間の外遊びや校庭での体育は行わないため、体育館での体力を高める運動を効果的に行えるように工夫してく。また、家庭での運動の機会を確保することを引き続き保護者に呼びかけるなど行い、体力の向上に努めていく。

(2) 安全・安心、心の教育

①生活規律を確立

- ・規範意識、危険回避能力を育てるセーフティ教室の実施（情報モラル、薬物への対応）
- ・テレビ、ゲーム、スマホの使用時間についての指導を実施（利用時間2時間以内）
- ・ヤングケアラー出前講座の開催 5年生

②教師の危険予知及び回避能力の向上

- ・安全対策、週案への記入と日直による見回りの徹底
- ・危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援
- ・ケアラーワークスによるヤングケアラー研修会の実施

③不登校、いじめに対しては、即時、組織的に対応

- ・サポートルームによる不登校対応、個に応じた支援の推進
- ・いじめ対策委員会を独立して設置し、いじめ防止基本方針を改訂し、教員に対しての研修を企画実施し、より早期発見・早期解決の推進

④防災教育を推進

- ・水害対応（府中市防災課との連携） 5年生
- ・避難所開設訓練での簡易トイレの設置、防災釜での炊き出しの見学（スクールコミュニティ協議会との連携） 5年生

⑤アレルギー対応を推進

- ・アレルギー対策委員会を開催 4月、9月、1月
- ・対応手順及び緊急時の連絡体制の確認・・・緊急対応訓練の実施 4月
- ・要配慮児童の共通理解、共通対応（配食及びアレルギー対応等の実技研修） 4月

⑥保護者への働きかけ

- ・保護者向け SNS 講座、保護者向け等開催

- 1 学校は、防災教育及び防犯、いじめやけがの防止・対策など、子供の安心・安全の教育を進めている。（避難訓練、避難所開設訓練、交通安全教室、セーフティ教室 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 89%】（昨年度 86%）

- 2 学校は、一人一人の保護者や子供のニーズに応じた教育を進めている。（不登校対応、校内支援、サポートルーム、スクールカウンセラー、きこえとことば・ひばり教室との連携、スマート連絡帳の活用 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 72%】（昨年度 82%）

3 学校は、特色ある教育活動を積極的に進めている。

（たてわり班活動、専門家（ゲストティーチャー）の活用、防災教育活動、外国語活動 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 85%】（昨年度 83%）

4 学校は、児童に規範意識や思いやりの心、豊かな心を育てている。

（道徳教育、児童発表、小中・地域との連携 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 79%】（昨年度 85%）

＜スクールコミュニティ協議会の評価＞

- ・防災教育や交通安全教育は積極的に行っている。また、ゲストティーチャーも活用されていると思います。
- ・たてわり班活動をもっと積極的に行った方がよい。
- ・規範意識や思いやりの心の育成は、かなりよくできていると感じています。
- ・たてわり班を活用して、上級生が下級生の面倒を積極的にみるようになればいいと思います。
- ・保護者がもっともっと関心をもって講習会、訓練に参加して子供と話ができるようになればと思います。
- ・学校に行ったときに、挨拶はよくしてくれると思います。
- ・もっと地域の方々との交流、地域の文化（お囃子など）交流があればよいと思います。
- ・避難所開設訓練などは、保護者も一緒にできればいいと思います。
- ・特色ある教育を積極的に進めていると思います。地域の方ももっと協力できたらよいです。
- ・いじめについて表面化しないケースが増えています。日頃から児童の様子を十分観察しながら取り組んでいただきたいです。

＜評価を受けて＞

防災教育として、毎月の避難訓練において、中河原公園への避難を行ったり、児童及び教職員への予告なしで実施したりするなどの工夫を行った。その結果として、実際に緊急地震速報が流れた際には、児童は躊躇なく机の下に入り、身を守る行動がとれていた。また、3年生が起震車体験を行い、5年生が避難所開設訓練において、水害対応や心肺蘇生法を体験するなど防災意識を高める活動も引き続き行った。防犯教育として、全学年の児童が発達段階に応じた内容をセーフティ教室で学ぶとともに、日頃からの学級指導において防犯指導を随時行うことで、防犯意識を高めた。今後は、避難訓練の内容においても、より実践に近い想定を取り入れることで、児童の対応力をさらに高めていく。

いじめへの対応として、全校朝会において、いじめの禁止等の話題をする他にも、多様性、ストレスマネジメント、感謝などの話題も取り入れるなど行い、いじめの防止を図った。また、単に話を聞くよりも意識に残ることを考えて、プレゼンテーションソフトを活用して、視覚的に全校朝会を実施した。

不登校対応として、サポートルームによる学校内での居場所づくりを進め、まずはサポートルームに通うことを目指す児童、サポートルームから1日数時間の教室での授業参加を目指す児童、教室での授業を基本としながらもサポートルームで精神的な安定を図る児童など、児童一人一人の状況に応じた対応を引き続き行った。

難聴言語学級と特別支援教室の併設校である利点を活かして、校内における特別支援

教育の理解を深める研修や講演会を開催した。

保護者向けに様々な講習会等を開催したが、保護者の参加者が少なかったことが課題であると感じている。どのようにすれば、学校として保護者に伝えたいことが伝わるのかを工夫・検討していく必要があると考える。

(3) 地域との連携

①スクールコミュニティ協議会、地域コーディネーターを活用した教育活動の展開

- ・保護者向け SNS 講座、保護者向け交通安全教室、ボッチャ体験会 等の実施
- ・地域と連携した補習授業（放課後算数教室）夏期算数教室の実施

②地域の防災拠点としての体制を維持、発展

- ・地域協働の避難所開設訓練〔防災研修〕 ・ ・ 10月（5年児童参加）
- ・スクールコミュニティ協議会を活用した地域防災会議（避難所運営委員会）

③学校からの情報発信

- ・学校経営計画・報告、住吉小だより、ホームページによる情報発信
- ・保護者会、スクールコミュニティ協議会等での情報発信

- 1 学校は、教育目標や学校教育の内容を分かりやすく伝えている。
(学校経営計画・報告、住吉小だより、保護者会、ホームページ など)

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）94%】（昨年度 94%）

- 2 学校は、児童の学習活動の様子などが保護者にしっかりと伝わるように情報を発信している。
(住吉小だより、学年だより、保護者会、ホームページ など)

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）87%】（昨年度 88%）

＜スクールコミュニティ協議会の評価＞

- ・学校便り等のペーパーでの連絡配布は必要だと思います。
- ・学年だより、住小だよりの配布が遅いと思います。
- ・お便りや保護者会等で学校の内容は伝わっていると思います。
- ・スマホでお便りを読むと、見逃しやみづらいところもあるので、重要なお便りは紙での配布が必要
- ・住小だより等で分かりやすく伝わっている。

＜評価を受けて＞

地域との連携として、スクールコミュニティ協議会を年間7回開催し、積極的に学校の情報を発信し、地域に開かれた学校を進めた。また、地域コーディネーターの方から、放課後算数教室での地域の方への協力の声掛けを行ったり、外部講師を招聘して5・6年生の SNS 講座の学習を行ったりした。また、地域の方の声掛けでの朝の読み聞かせなども進んできた。今後も地域との協働を進め、より地域の方との関りのもてる活動を進めていく。

学校の情報発信として、学校だよりやホームページ等で積極的に発信してきた。保護者会においては、短時間での効率的なコミュニケーションを目指して、保護者会の内容の工夫を行うようにしていく。今後、スマート連絡帳の効果的な活用、ホームページの充実、保護者会での発信を進めていく。

2 次年度の課題と対応策

住吉小の強みを生かして、今年度に引き続き取り組みを進めていく。

(1) 学力向上にかかわって

①個人差に応じた指導の充実（算数科を重点教科とする）

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）を実施する。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の対象を拡大する。
- ・朝の読み聞かせを充実し、読書に親しむ機会を増やす。
- ・担任教員の指導の下、学校支援員を活用した個別学習を実施する。
- ・ICTを活用し、一人で繰り返し学習を行えるようにする。
- ・特別支援教育の視点による支援を推進する。

②地域・家庭との連携で進める取組

- ・住吉10分運動の家庭での実施を推進する。
- ・ICTの家庭学習での活用を推進する。

③学力向上への対応

- ・学習環境を整備し、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進める。
- ・地域人材を活用したICT教育を推進する。
- ・ICTを活用した授業改善をさらに推進する。

(2) 安心・安全教育の推進にかかわって

①いじめ、不登校への対応

- ・規範意識、思いやりの心を醸成する「あいさつ運動」を実施する。
- ・住吉のいじめ対応基本方針をもとに危機対応研修を実施する。
- ・いじめ対策委員会において、定期的な校内の把握を行うとともに、早期解決に向けての組織的対応を充実させる。
- ・校内支援委員会を中心にした教育相談体制を維持継続する。
- ・サポートルームを活用した支援を行い、不登校の改善及び解消を図る。そのため、非常勤教員を配置し、学校支援員、子どもと家庭の支援員を活用する。
- ・ケースに応じて、教育センター、児童相談所、子育て支援タッチなどの外部機関やSC、SSWなどの人材を積極的に活用し、問題解決に当たる。
- ・情緒障害及び難聴・言語障害担当教員による障害理解教育を推進する。
- ・教員・保護者合同の障害理解研修を開催する。

③防災教育の推進

- ・不審者、地震、火災、水害などあらゆる危機を想定した避難訓練を工夫し実施する。
- ・地域連携による避難所開設訓練を実施する。10月

(3) 地域・保護者との連携にかかわって

①府中版コミュニティスクールの推進

- ・「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、「ふるさと意識」を醸成する。
- ・地域の方によるゲストティーチャーの活用を進めていく。
- ・避難所開設訓練、放課後算数教室の充実を図るとともに、指導体制強化のため地域人材の確保に努める。

②小中連携一貫教育の推進

- ・実践交流を通して、中一ギャップの解消、不登校やいじめ対策、情報モラルの浸透、ICT（プログラミング学習を含む）の推進、外国語や道徳など新たな教科への対応等、教育課題解決のため教師の指導力を高める。